

2日(土)・3日(日)・9日(土)・10日(日)・
16日(土)・17日(日)・23日(土)・24日(日)
日没から午後9時30分まで(晴天時のみ)

星空通信



2023年12月号

- 4日 水星が東方最大離角
- 5日 下弦
- 7日 海王星が留
- 13日 新月/水星が留
- 15日 ふたご座流星群が極大
- 20日 上弦
- 23日 水星が内合
- 27日 満月



☆用語解説☆

りゅう
留…惑星が順行⇔逆行へ変わる時、一時停止して見えること

ないごう
内合…地球-内惑星-太陽と並んだ時

がいごう
外合…地球-太陽-内惑星と並んだ時

とうほうさいだいいりかく
東方最大離角…地球から見た天球上で、太陽の東側にもっとも離れる瞬間。

今月の惑星情報

水星

月初は日の入り後の南西の低空に位置。4日に東方最大離角となるが日の入り30分後の高度が10度にも満たず、観察は難しい。23日に内合、以後は日の出前の南東の低空に位置。

金星

日の出前の南東の空に見える。明るさは-4.2等~-4.0等。

火星

月初はさそり座を東に移動、上旬にはへびつかい座に移る。さらに月末にはいて座に入る。見かけの位置が太陽に近く観察は難しい。

木星

おひつじ座を西に移動。宵の東から南東の空に見え、明るさは-2.8等~-2.6等。

土星

やぎ座を東に移動。宵の南西の空に見え、明るさは0.8等~0.9等。

ふたご座流星群

2023年のふたご座流星群の活動は、この前後でとても活発な状況となることが予想されます。12/15の4時頃が極大となり、この前後でとても活発な状況となることが予想されます。12/13が新月で月明かりの影響もなく、極大時刻に近い12/14夜から15日明け方にかけては、多くの流星群を観察することができます。ふたご座流星群が普通より多く見えるのは12/13の夜~12/15の夜の3夜と予想されます。どの夜も、21時頃から見える流星の数が増え、夜明けをむかえる翌朝の5時過ぎまで観察できます。ぜひ観察してみましょう!

